

# Canon EF LENS

## EF600mm f/4L IS III USM



IMAGE STABILIZER  
 ULTRASONIC

JPN  
使用説明書

# キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF600mm F4L IS III USM は、手ブレ補正機能を備えた、EOSカメラ用超望遠レンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

## カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

## 本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

# 安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

**警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。
- レンズを太陽に向けしないでください。太陽が画面外にあるときでも、レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。
- レンズをカメラに取り付けたときは、必ずレンズ側を保持してください。カメラ側のみを保持すると、レンズがカメラから外れて落ち、故障やけがの原因となります。
- レンズをカメラに取り付けて持ち運ぶときは、同梱のストラップをレンズに取り付けて使ってください。カメラ側のストラップを使うと、レンズがカメラから外れて落ち、故障やけがの原因となります。

**注意** 傷害を負う可能性がある内容です。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れると、やけどやけがの原因となります。
- 三脚を使うときは十分に強度があるものを使ってください。

**注意** 物的損害を負う可能性がある内容です。

- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。

## 一般的なご注意

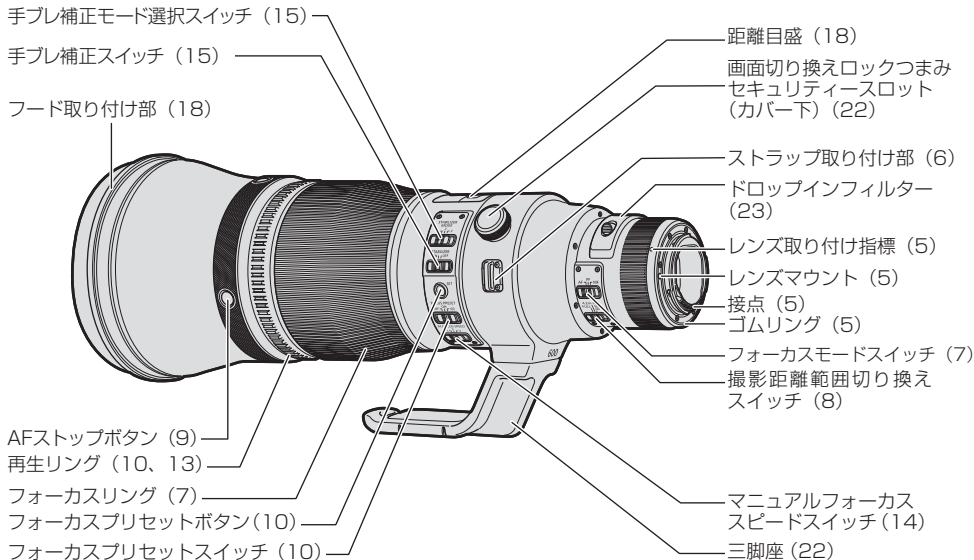
### 取り扱い上のご注意

- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

### 撮影上のご注意

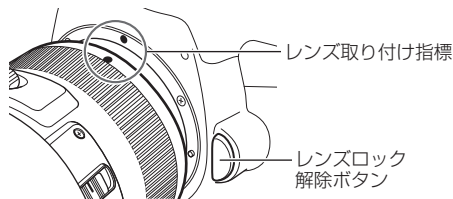
- このレンズはフォーカスリングに電子式を採用していません。カメラの電源が切れているとき、フォーカスリングを回してもピント合わせはできません。

# 各部名称



● (\*\* ) の\*\*部は参照ページを示しています。

# 1. レンズの取り付け／取り外し



## レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

## レンズの取り外し方

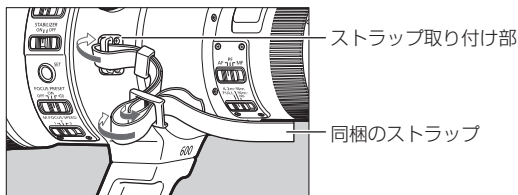
カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。
- 防塵・防滴性能の向上のために、このレンズではレンズマウントにゴムリングが付いています。このゴムリングにより、カメラのレンズマウント周辺に細い擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題ははありません。

- このレンズはカメラより重いため、レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラ側を回してください。事前に三脚に取り付けるなどして、レンズを安全に自立した状態にしておくことをおすすめします。
- ゴムリングはキャノンサービスセンターで交換できます。(有料)

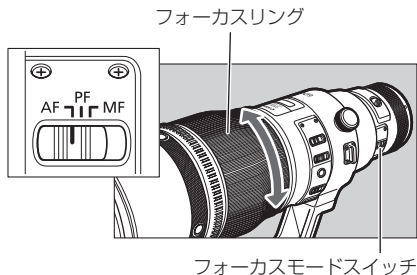
## 2. ストラップの取り付け



ストラップの先端を、ストラップ取り付け部に通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。ストラップを引っばって、留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- レンズを使う前に、ストラップがしっかり取り付けられているか、消耗（損傷）していないかなど、ストラップの状態を確認してください。

### 3. フォーカスモードの選択



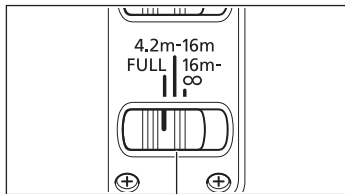
- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

- このレンズのフォーカスリングは電子式です。
- カメラのAF動作が [ONE SHOT] のとき、AFのあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(フルタイムマニュアルフォーカス) カメラの設定変更が必要になる場合があります。
- カメラのカスタム機能でAFのボタン設定を“シャッターボタン”以外に変更すると、AF駆動中以外は、シャッターボタンの半押し操作に関係なくマニュアルフォーカスができます。

オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。パワーフォーカス (PF) については、P13をご覧ください。



## 4. 撮影距離範囲の選択



撮影距離範囲切り換えスイッチ

撮影距離の範囲をスイッチで選びます。撮影距離に応じて選ぶことで、AF作動時間が短くなります。

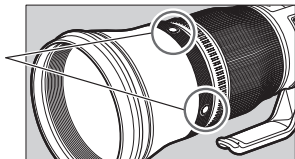
### 撮影距離範囲

- ① FULL (4.2m-∞)
- ② 4.2m-16m
- ③ 16m-∞

## 5. AFストップボタン

AFストップボタンを使うと、AFを一時中断することができます。

AFストップボタン



AF中にAFストップボタンを押すと、AFは一時的に停止し、離すとAFは再開します。

撮影距離を保持したいときや、サーチ駆動を避けたいとき、AFストップボタンを押します。

AFストップボタンを押したままでシャッターボタンを押すと、その撮影距離で撮影できます。

● 次の場合、AFストップボタンを離しても、AFは再開しません。

- ・カメラ：EOS 630、EOS RT、EOS 5、EOS 10  
[AI SERVO]で連続撮影モードのとき
- ・カメラ：EOS 5、EOS 10  
スポーツモードのとき

● 主にAF動作が[AI SERVO]のときに便利です。

● カメラの機種によっては、AFストップボタンの機能を変更できます。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

● AFストップボタンの角度位置は、キヤノンサービスセンターで調整できます。(有料)

## 6. フォーカスプリセット

フォーカスプリセットを使うと、再生リングを回すことで、任意にプリセットした撮影距離にピントを合わせることができます。

フォーカスプリセットを使うときは、フォーカスプリセットスイッチをONまたは(🔊)にします。(🔊)にすると、プリセット時や移動時に電子音が鳴ります。

操作手順により、1点、または2点のプリセットが可能です。

### 1点プリセット

撮影距離を1点プリセットできます。

#### <撮影距離をプリセット>

- 1 プリセットしたい距離にピントを合わせます。
- 2 フォーカスプリセットボタンを押し、その距離をメモリーにプリセットします。

#### <プリセットした撮影距離で撮影>

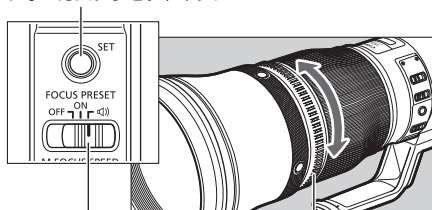
再生リングを左、または右に回すと、プリセットした距離にピントが移動します。

再生リングを回したままでシャッターボタンを押すと、その距離で撮影できます。

### 電子音【ブザー】の説明

- ・ピッ : 撮影距離をプリセットしたとき
- ・ピピッ : プリセットした撮影距離にピントが移動したとき

フォーカスプリセットボタン



フォーカスプリセット  
スイッチ

再生リング

## フォーカスプリセット

### 2点プリセット

フォーカスプリセットボタンを長押しすることで、撮影距離を2点プリセットできます。

#### <撮影距離をプリセット>

- 1 プリセットしたい距離にピントを合わせます。
- 2 フォーカスプリセットボタンを長押し（1秒以上）したあと、すぐに再生リングを左右どちらかに回し、その距離を回した方向のメモリーにプリセットします。
- 3 同様の手順で、もうひとつの距離をプリセットします。

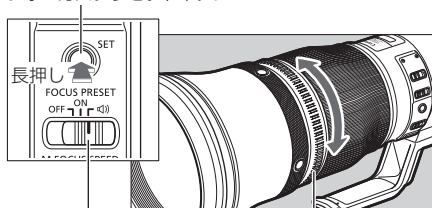
#### <プリセットした撮影距離で撮影>

再生リングを左、または右に回すと、プリセットした各々の距離にピントが移動します。  
再生リングを回したままでシャッターボタンを押すと、その距離で撮影できます。

#### 電子音【ブザー】の説明

- ・ピッピッ：ボタンの長押しを検知したとき
- ・ピッ：撮影距離をプリセットしたとき
- ・ピッピッ：プリセットした撮影距離にピントが移動したとき

フォーカスプリセットボタン



フォーカスプリセット  
スイッチ

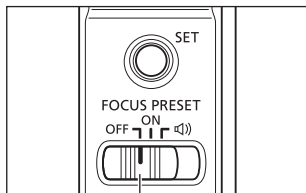
再生リング

## フォーカスプリセット

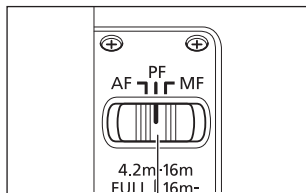
- 2点プリセットの設定で、フォーカスプリセットボタンを押したあと、再生リングを回さないでいると、ピッピッピと音がしてプリセットがキャンセルされます。そのときは、プリセットの手順を始めからやりなおしてください。
  - 2点プリセットの設定中に、カメラの電源が切れることがあります。そのときは、シャッターボタンを半押しして、プリセットの手順を始めからやりなおしてください。
  - フォーカスプリセットを使わないときは、フォーカスプリセットスイッチをOFFにしてください。
  - 次のカメラ機種の場合、ライブビュー撮影、動画撮影でのフォーカスプリセットはできません。  
EOS 60Da、EOS Kiss X70、EOS Kiss X80、EOS Kiss X90  
及び2011年以前に発売された全てのEOSカメラ
- 
- フォーカスプリセットはすべてのフォーカスモードで使えます。ピント合わせの速度は、フォーカスモードがPFで動画撮影のときのみ低速になり、それ以外では高速になります。低速での速度は、再生リングの回す量によって2段階に切り換わります。
  - カメラにレンズを取り付けたとき、フォーカスプリセットの初期値はすべて無限側の端です（無限遠ではありません）。
  - プリセットした撮影距離は、カメラからレンズを取り外すまで記憶しています。

## 7. パワーフォーカス (PF)

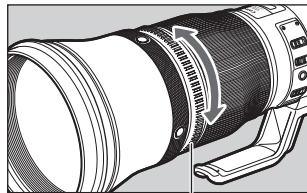
パワーフォーカスを使うと、再生リングを回すことでスムーズなピント送りができます。動画撮影でのピント送りに便利です。



フォーカスプリセットスイッチ



フォーカスモードスイッチ



再生リング

- 1 フォーカスプリセットスイッチをOFF、フォーカスモードスイッチをPFにします。
- 2 再生リングを手で回してピントを送ります。

● パワーフォーカスの速度は、再生リングの回す量によって2段階に切り換わります。

## 8. マニュアルフォーカス (MF)

マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、マニュアルフォーカスの速度を選ぶことができます。

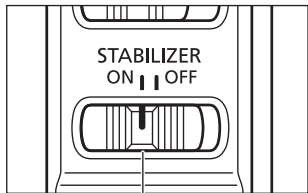


マニュアルフォーカススピードスイッチでマニュアルフォーカスの速度を選びます。速度は1が最も高速で、以降2、3の順番で低速になります。

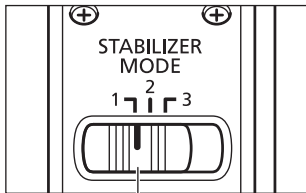
- 細かなピント合わせには速度3をおすすめします。

## 9. 手ブレ補正

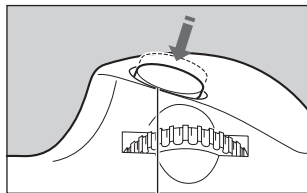
手ブレ補正は、手持ち撮影で生じるブレを補正します。



手ブレ補正スイッチ



手ブレ補正モード選択スイッチ



カメラのシャッターボタン

**1** 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正を使わないときは手ブレ補正スイッチをOFFにします。

**2** 用途、状況に応じて手ブレ補正モードを選びます。

**3** カメラのシャッターボタンを半押しします。像が安定したらシャッターボタンを全押しして撮影します。\*

- \* MODE 3のみ、補正の効果はファインダーで確認できません。

### 手ブレ補正モード

- MODE 1：全ての方向の手ブレを補正します。  
主に静止した被写体の撮影に適しています。
- MODE 2：水平、または垂直にカメラを振ったとき、振った方向と直交する手ブレのみを補正します。  
動く被写体の撮影に適しています。
- MODE 3：露光中はMODE 2と同じように手ブレを補正します。  
露光中のみ手ブレを補正するため、不規則に動く被写体の撮影に適しています。



## 10. 手ブレ補正の有効な使い方

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

### MODE 1

主に静止した被写体の撮影



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

### MODE 2

動く被写体の撮影



- 自動車や鉄道などの流し撮り

### MODE 3

不規則に動く被写体の撮影



- サッカーやバスケットボールなどのスポーツ撮影
- 動物などの撮影

## 手ブレ補正の有効な使い方

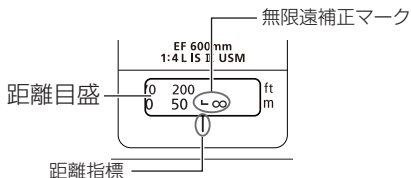
- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 次のような条件では、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
  - ・ 大きな揺れや速い振動のとき
  - ・ MODE 1で流し撮りをしたとき
- 手ブレ補正スイッチをONにすると、OFFのときより電力を消費します。
- 輸送などの振動で手ブレ補正機構の固定が外れ、「カタカタ」と音がすることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。この現象は、一旦レンズをカメラに取り付けると解消します。
- 三脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、三脚の種類や撮影条件によっては、手ブレ補正スイッチをOFFにした方がよい場合があります。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。ONにすると手ブレ補正が誤作動することがあります。
- EOS-1V/HS、3、7、7s、55、Kiss III、Kiss III L、IX E、D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正は働きません。



- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAFのボタン設定を変更したときは、変更後のAFボタン操作でも手ブレ補正が働きます。

## 11. 無限遠補正マーク



温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（ $\infty$ ）位置に余裕を持たせてあります。

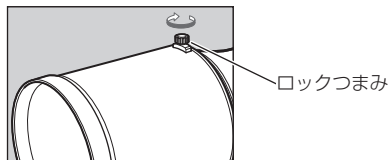
常温の無限遠位置は、距離目盛のLマークの縦線と距離指標が合うところです。

- 無限遠の被写体にMFで正確にピントを合わせるときは、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像\*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

\*ライブビュー撮影可能なカメラの場合

## 12. フード

専用のフードは、不要な光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



### フードの取り付け方

フードのロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。レンズのフード取り付け部にフードを合わせ、ロックつまみを時計方向に回してしっかりと固定します。

レンズを収納するときには、フードをレンズに逆向きにかぶせます。

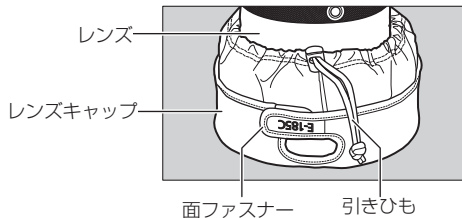
## 13. レンズキャップ

専用のレンズキャップは、レンズを収納するときや撮影していないときに、衝撃やほこりなどからレンズ前面を保護します。

このレンズキャップは、レンズだけでなく、フードにも取り付けることができます。

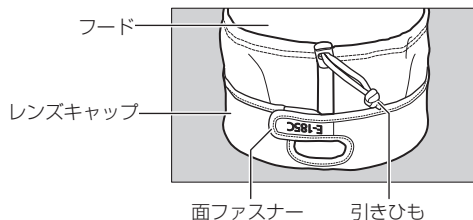
### レンズキャップをレンズに取り付けるとき

図のように、レンズキャップを直接レンズの先端（フード取り付け部）にかぶせて取り付けます。容易に外れないように、引きひもを引いて固定します。



### レンズキャップをフードに取り付けるとき

図のように、レンズキャップをフードの先端にかぶせて取り付けます。容易に外れないように、面ファスナーと引きひもを使って固定します。

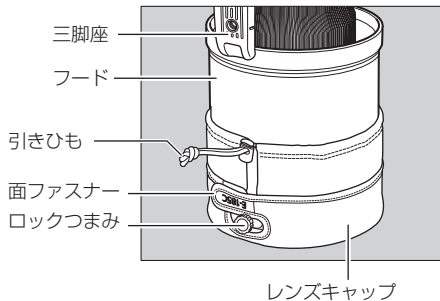


## レンズキャップ

### レンズを収納するとき

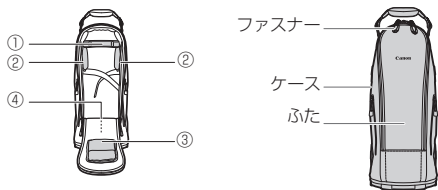
フードをレンズに逆向きにかぶせます。フードのロックつまみと三脚座が一直線に並ぶように、ロックつまみを回してしっかりと固定します。図のように、レンズキャップをフードのロックつまみの位置にかぶせて取り付けます\*。容易に外れないように、面ファスナーと引きひもを使って固定します。

\* ロックつまみを囲むように、面ファスナーを閉じます。



## 14. ケース

ケースは、レンズを持ち運ぶときなどに使います。

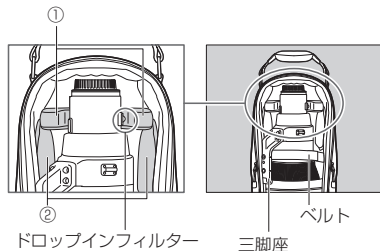


図のように、各クッションをすべてケース内に貼り付けます。

- |                 |    |
|-----------------|----|
| ①クッション (U字形) *1 | ×1 |
| ②クッション (四角小)    | ×2 |
| ③クッション (四角大)    | ×1 |
| ④クッション (丸形) *2  | ×1 |

\*1 レンズのドロップインフィルターの部分をおさえる位置に貼り付けてください。

\*2 ケースの底に貼り付けてあります。



### レンズの収納方法

- 1 ダストキャップをレンズに取り付けます。
- 2 フードをレンズに逆向きにかぶせてから、レンズキャップを取り付けます。詳しい取り付け方は、P20をご覧ください。
- 3 図のように、レンズをケースに入れ、三脚座が手前左側になるようにします。
- 4 ベルトでレンズをしっかり固定します。
- 5 ファスナーを引いてふたを閉めます。

- レンズを収納する前に、必ずすべてのクッションをケース内に貼り付けてください。
- レンズは、必ず決められた収納方法のとおりに入納してください。

## 15. 三脚座

三脚または一脚は、レンズの三脚座に取り付けます。

### レボルビング（回転）

三脚座の画面切り換えロックつまみをゆるめると、カメラごと回して画面の方向（縦位置、横位置など）を任意に設定できます。

90°ごとの計4か所にクリックがあります。

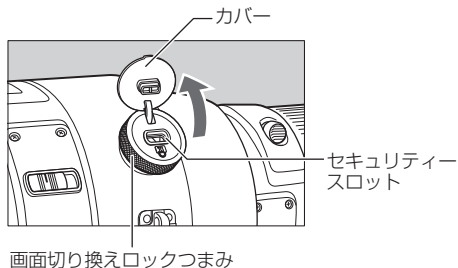
- 三脚座の固定方法は特殊ですので、安全のためにお客様ご自身では交換しないでください。

- 三脚座はキヤノンサービスセンターで、別売の一脚座に交換できます。（有料）

## 16. セキュリティー slots

盗難防止のために、このレンズはセキュリティー slots を備えています。

セキュリティー slots は、画面切り換えロックつまみのカバーの下にあります。ここに市販のセキュリティーワイヤーが取り付けられます。



## 17. ドロップインフィルター

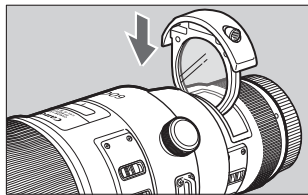
このレンズでは、52（WIII）シリーズのキャノンドロップインフィルターが使えます。

### ドロップインフィルターの取り外し方

取り外しは、両方のロック解除ボタンを押しながら、まっすぐに引き抜きます。

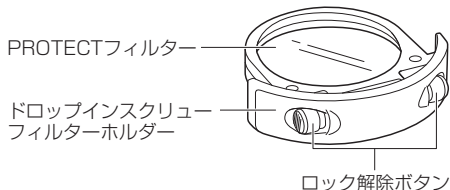
### ドロップインフィルターの取り付け方

取り付けは、「カチッ」と音がするまで押し込みます。前後どちらの向きでも取り付けられます。



このレンズには、ドロップインスクリーフフィルターホルダー 52（WIII）とキャノンPROTECTフィルターが付属しています。

市販のレンズフィルターを使う場合は、PROTECTフィルターと入れ換えてください。フィルターサイズは52mmで、1枚のみ使えます。





## ドロップインフィルター

- このレンズはフィルターを含めて光学設計されていますので、必ずキャノンPROTECTフィルターか市販のレンズフィルターを取り付けてから、ドロップインスクリューフィルターホルダーを取り付けてください。
  - 市販のレンズフィルターは、フィルター枠の厚みによっては使えないものもありますのでご注意ください。
- 別売でドロップインゼラチンフィルターホルダー 52 (WIII)、ドロップイン円偏光フィルター PL-C52 (WIII) が用意されています。
  - ドロップインフィルター 52/52 (WII) シリーズも使えます。ただし、外観色がレンズ本体と異なります。

## 18. エクステンダー（別売）

エクステンダー EF1.4×Ⅲ、および EF2×Ⅲ を使うと、被写体をより大きく撮影できます。エクステンダーを使った場合のレンズの仕様は次のようになります。

		EF1.4×Ⅲ	EF2×Ⅲ
焦点距離 (mm)		840	1200
絞り数値		F5.6-45	F8-64
画角	水平	2°30'	1°40'
	垂直	1°40'	1°10'
	対角	3°	2°
最大撮影倍率 (倍)		0.21	0.31

- レンズにエクステンダーを取り付けた後、カメラを取り付けてください。取り外しは逆の手順で行ってください。先にカメラにエクステンダーを取り付けると誤作動することがあります。
- エクステンダーは2つ以上重ねて使えません。
- エクステンダー EF2×Ⅲを使った場合、開放絞り数値がF8になるため、AFで撮影できるカメラが限られてきます。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- エクステンダーを使った場合は、制御性を考慮してAF速度を遅くしています。

## 19. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブ EF12 II、および EF25 II を使うと、被写体により近づいて大きく撮影できます。エクステンションチューブを使った場合のレンズの仕様は次のようになります。

### EF12 II

	近距離側	遠距離側
撮影距離範囲 [mm]	3757	29435
撮影倍率 [倍]	0.18	0.02

### EF25 II

	近距離側	遠距離側
撮影距離範囲 [mm]	3382	14187
撮影倍率 [倍]	0.21	0.05

- 正確なピント合わせにはMFをおすすめします。

# 主な仕様

焦点距離・明るさ	600mm F4
レンズ構成	13群17枚
最小絞り	F32
画角	水平3°30'、垂直2°20'、対角4°10'
最短撮影距離	4.2 m
最大撮影倍率	0.15倍
画界	約239×159mm (4.2m時)
フィルター	ドロップインフィルター 52 (WIII) シリーズ
最大径×長さ	約168×448 mm
質量	約3050g
フード	ET-160 (WIII) ET-160B (別売)
レンズキャップ	E-185C
ケース	LS600 600C (別売)

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- クローズアップレンズ250D/500Dは取り付けできません。
- 絞り数値はカメラ側で設定します。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## 修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品をご使用いただけなくなる場合があります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ  
***canon.jp/ef***

キヤノンお客様相談センター  
**050-555-90002** (直通)

受付時間〈平日/土〉9:00～17:00  
(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

**Canon**